

特別講義「世界と日本の未来を考える」

～ 学長 × 受講者 座談会 ～

学部・学年の枠を超えて開講された、特別講義「世界と日本の未来を考える」。今回、授業を受講し終えたばかりの受講者の方に、水口学長が、受講のきっかけや授業の様子について話をうかがいました。



高崎経済大学でしか受けられない 外部講師による授業が魅力

学長：みなさん、授業お疲れさまでした。今日は、今年の特別講義を受講された安田さんと黒澤さん、坂戸さん、村上さんをお招きしました。みなさんがなぜこの特別講義を受講したのか、実際に受講してみてどうだったかなどについて話をうかがいたいと思います。まずは、受講したきっかけを教えてください。

村上：HP に掲載されている昨年の「特別講義」を見た時に、色々な分野で活躍されている方の話を聞くことができるのが面白そうだと感じた事と、授業の後半に新規事業開発ワークショップを行うことに興味を持って特別講義を受講したいと思いました。

黒澤：チラシと昨年の「特別講義」の発表動画を見た時に、社会問題の解決に向けて、第一線で取り組まれている方のお話を聞ける点と、授業内で新規事業開発のワークショップを行うことができるという、2 点に興味を持ちました。また、他の講義では得ることのできない新たな

学びを得て、自分自身が成長できると思い受講しました。

学長：過去の動画を見てどう思いましたか。

黒澤：自分たちで一から新規事業を立案している姿を見て、他の授業とは違う魅力を感じました。

また、1年生のうちにこのような経験を積みたいと思いました。



坂戸：私は、1・2年生の時間があるうちに自分が興味のあることに取り組みたいと思っていたのですが、まだ興味があるものが分からない状態だったので、この講義ではSDGsや金融、ITなど様々な分野の方が講師として教えていただける機会に自分が興味のあることを知ることができ、新たな取組ができるのではないかと考えました。私は課外活動で新規事業開発やコンテストに応募したりしています。新規事業など企画を考えることが好きなので、純粋に面白そうだと思い受講しました。

学長：講義を受けてやりたいことは見つかりましたか。

坂戸：講義を受けて、女性の問題について興味を持ちました。講義内での学びや経験を踏まえて、今後はより女性の問題について知り、新規事業についても考えたいと思いました。

安田：受講のきっかけとなったのは、大学から送られてきた「特別講義」の案内メールです。今後の自分自身のキャリアを考える上で、社会課題に真剣に向き合う経営者の方のお話を聞ける機会は貴重だなと感じて受講しました。

学長：実際に受講して、みなさんどんな印象でしたか。特に印象に残っている出来事や講師の方の言葉などがありましたら教えてください。

安田：BNP パリバアセットマネジメント社長の土岐さんの、意思決定に関するお話しがとても印象に残りました。AIが急速に拡大する今日においては、人間らしい部分というものの重要性が非常に大事だと認識させられる講義でした。

坂戸：私は、NECの野口さんがおっしゃった「自分が正しいと思い込もうとするクセを直す。」という言葉が印象に残りました。また、「鳥の目、虫の目、魚の目」という言葉を聞いて、別の視点から物事をとらえるということは何事においても重要なことだと感じました。

黒澤：私はグループで新規事業開発のワークショップをしたことが印象に残りました。その中で、グループワークを通じて一人ひとりの強みを生かして協力することの大切さを実感しました。印象に残っている言葉は、気候変動問題に取り組んでいる平田さんの「専門家などの自分ではない他の誰かがやってくれるという意識を変える必要がある」という言葉が特に印象に残りました。自分ではできないと思い込まず、自分を信じて挑戦してみることが大切だなと感じました。私はこの言葉からとても勇気を貰ったので、これから様々なことに挑戦していき





たいと思っています。

学長：平田さんのお話はとても良かったですよね。

村上：私は、NECの野口さん・石川さんのお話が印象に残っています。流れるようなトークと学生を引き込む力が印象的でした。本当は発言したいのに、発言ができない学生を見抜く力が凄いなと感じました（笑）。また、「誰か一人の思いから始まる」という言葉が印象に残りました。

学長：NECの石川さんは、講義室内を歩いて学生を当てに回っていましたね（笑）。NECのお二人は面白いですね。

受講者同士のグループワークで コミュニケーション能力の向上も

学長：今回、「男性育休支援アプリ」を新規事業としてテーマにされていましたが、なぜこのテーマにしたのですか。

黒澤：男性はなぜ育休取得率が低いのかという話から、取得し辛い環境を改善するにはどうしたら良いかを考えて、最終的にアプリになりました。

学長：なるほど。一番苦労したことは何ですか。

坂戸：時間が短く、意見をまとめきれなかったことです。6人全員で集まる機会があまり無かったことが大変でした。

安田：私は、アイデアを出すというところまではスムーズにできましたが、事業として確立するということを考えるのに行き詰まりました。

学長：どうやったら儲かるのか考えますよね（笑）。

黒澤：私は、短期間で自分一人ではなく他の人の意見を取り入れながら、新規事業という形にしていくのが大変でした。



この授業でしかできない経験がある

学長：最後になりますが、講義全体を振り返ってどんなことを学びましたか。

黒澤：この講義を振り返って、得たものが沢山ありました。まず、自分の考えを伝え、周りの人の意見を取り入れる力が身に付きました。この講義では、様々な講師の方から自分の意見を求められる機会が多く、自分の意見を考える時間を与えてくれたと同時に、自分の意見を伝える

ことの大切さを学ぶことができました。

学長：自分の意見を伝えることは大事ですね。

村上：私は、一から事業を立ち上げることの難しさを改めて実感しました。問題はどこからきているのか、新規事業は誰のために行うのかなど色々なことを考えなければならないので、ビジネスで成功されている講師の方の凄さを実感しました。

安田：特別講義を受講して、視野がより広がりました。よく耳にするような地球規模の社会課題のみならず、地域特有の社会課題も知ることができました。その上でどのようなアプローチをしていくのかについて考えるきっかけや、発想の仕方を学ぶことができました。

坂戸：私は、様々な分野を学んで新規事業を考えたことによって、インプットとアウトプットができるようになりました。学びだけで終わらず、実践まで繋がれたのがとても良かったです。また、事業やイノベーション創出の際に、最初に価値やニーズを考えるとところから始めるということが、本質的に重要な部分を考えるということが大切なので意識したいと思いました。

学長：みなさんが新規事業として提案した「男性育休支援アプリ」はとてもいいアイデアで、実際にビジネスになるのではと感じました。たとえばコンサル会社を設立して、男性の育休取得率が上がりますよと県内の会社に売り込んで行ったら、それによって各社の男性育休取得率が上がり、社会全体に良い影響を与えるかもしれません。ぜひ、将来ビジネスにして、頑張ってください。

